

レジメンcode:	C22-13	備考
適応がん種:	肝細胞癌	
レジメン名:	Tremelimumab+Durvalumab	
間隔:	4週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	イジユド	[*1]300	mg/body	点滴(1時間)	d1
	イミフィンジ	[*2]1500	mg/body	点滴(1時間)	d1

*イジユド+イミフィンジ併用療法を初回投与4週間後、【C22-14】イミフィンジ単剤療法(肝細胞癌)(4週間間隔、疾患進行(PD)まで継続)へ移行する。

[*1]イジユド:体重30kg以下の場合の1回投与量は4mg/kgとする。

[*2]イミフィンジ:体重30kg以下の場合の1回投与量は20mg/kgとする。

day1

1) 生食	50ml	1本	ルート確保		
2) イジユド		[*1]300 mg/body			
生食	100ml	1本			
	主管①	点滴	1時間	インラインフィルター必須	
3) 生食	50ml	1本			
	主管②	点滴	15分		
4) イミフィンジ		[*2]1500 mg/body			
生食	100ml	1本			
	主管③	点滴	1時間	インラインフィルター必須	
5) 生食	50ml	1本			
			フラッシュ用		

〈所要時間 約2時間30分〉

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験(HIMALAYA試験 NEJM Evid 2022;1(8)PMID:36016731)

【適応】

*治癒切除不能な肝細胞癌

*対象:(臨床試験)全身化学療法歴のない、局所療法の適応とならない、Child-Pugh分類Aの患者

*PD-L1発現の有無は問わない。

【イジユド、イミフィンジ】

*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。

◎検査セット登録あり:場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目～)

*インラインフィルター(0.2又は0.22 μ m)を使用する。

【イジユド】

*生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液に溶解し、最終濃度0.1～10mg/mlとする。

*希釈後、2～8℃で28日以内、室温保存では48時間以内に投与を開始する。

*同一の点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しないこと。

*特に注意する副作用(間質性肺炎、1型糖尿病、肝機能障害、肝炎、大腸炎、甲状腺機能障害、infusion reaction)。

*適正使用ガイドの有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連)対処方法を参照する。

*国際共同第Ⅲ相試験(HIMALAYA試験)における検査スケジュールを参照する。